



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

機関投資家向け説明会資料
「急拡大する蓄電池ビジネスの収益構造と投資機会」

2025年12月

本資料は弊社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先

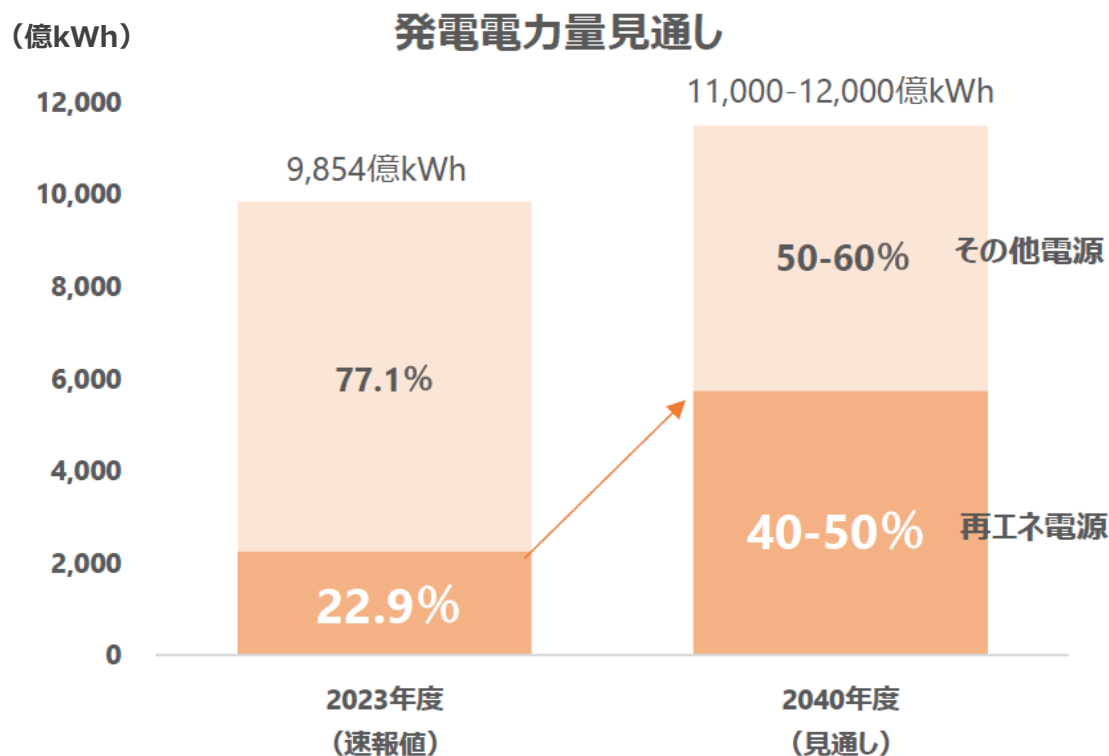
イーレックス株式会社 IR広報部

Mail: ir.info@erex.co.jp

- I 拡大する国内外の蓄電池市場**
- II 蓄電池事業の概要と収益モデル**
- III アグリゲーションの重要性**
- IV イーレックスの戦略における蓄電池の位置づけ**
- V 質疑応答**

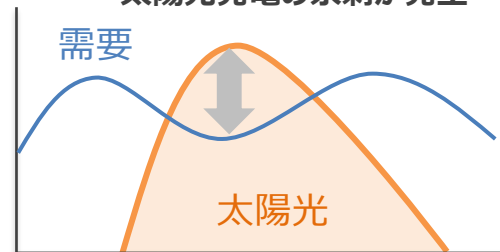
I 拡大する国内外の蓄電池市場

- 2025年2月に第7次エネルギー基本計画が閣議決定。2023 年度の再エネ比率 22.9%に対し、2040 年度には再エネ比率 が40～50%程度に高まる見通しが示された。
- これにより太陽光や風力等の自然変動電源が増加する中、安定した電力供給には、電力需給バランスの調整が不可欠。このような背景から、蓄電池は重要性が高まっている。

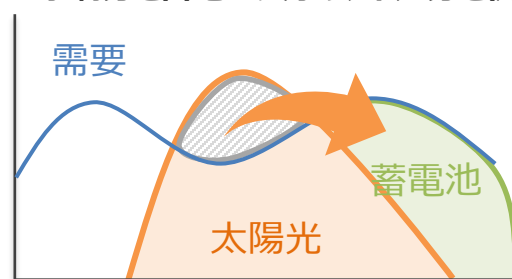


需要カーブと供給カーブに差異があり

太陽光発電の余剰が発生

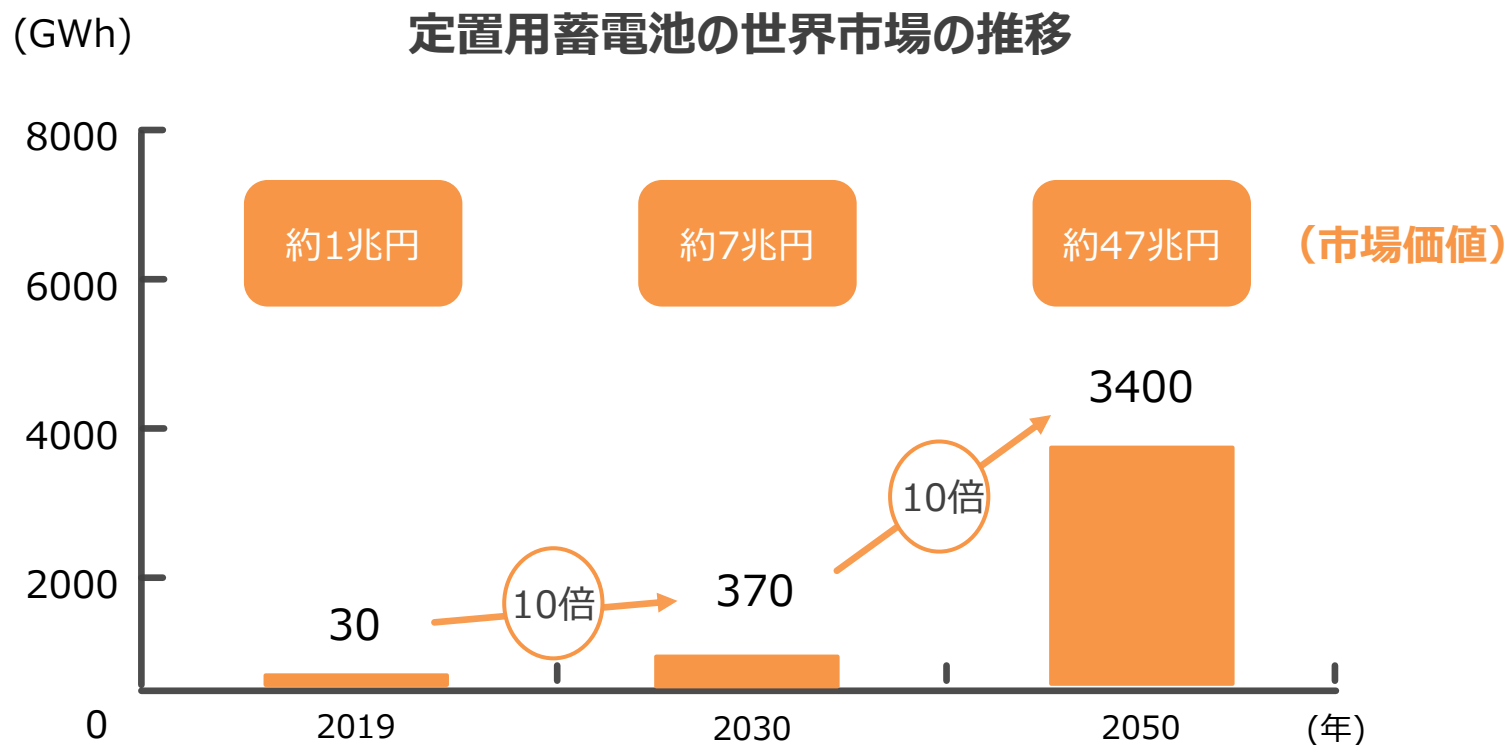


余剰分を蓄電池に貯め、不足分を供給

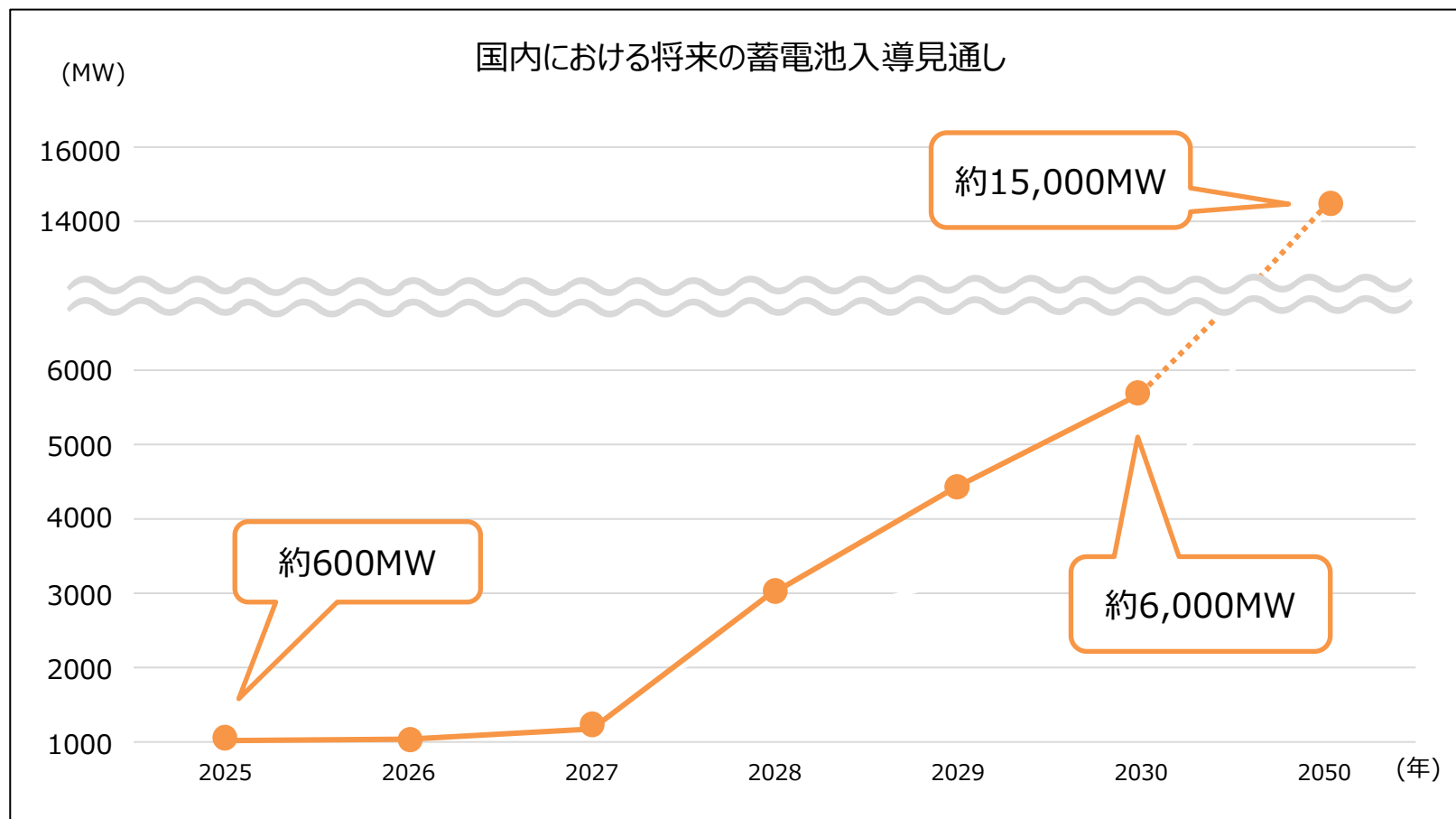


(出典) 令和7年2月資源エネルギー庁 エネルギー基本計画の概要「2040 年度におけるエネルギー需給の見通し」より当社作成

- 蓄電池の世界市場は2050年に向けて拡大する見通し。2019年から2050年にかけて年率約13%成長を見込む。
- こうした市場の傾向を踏まえて、国内における設備投資や市場拡大が見込まれる。



- 国内において2025年約600MWの蓄電池導入想定から2050年には約14,300MWの導入量まで拡大する見通し。



出所：シンクタンク等の情報をベースに当社作成

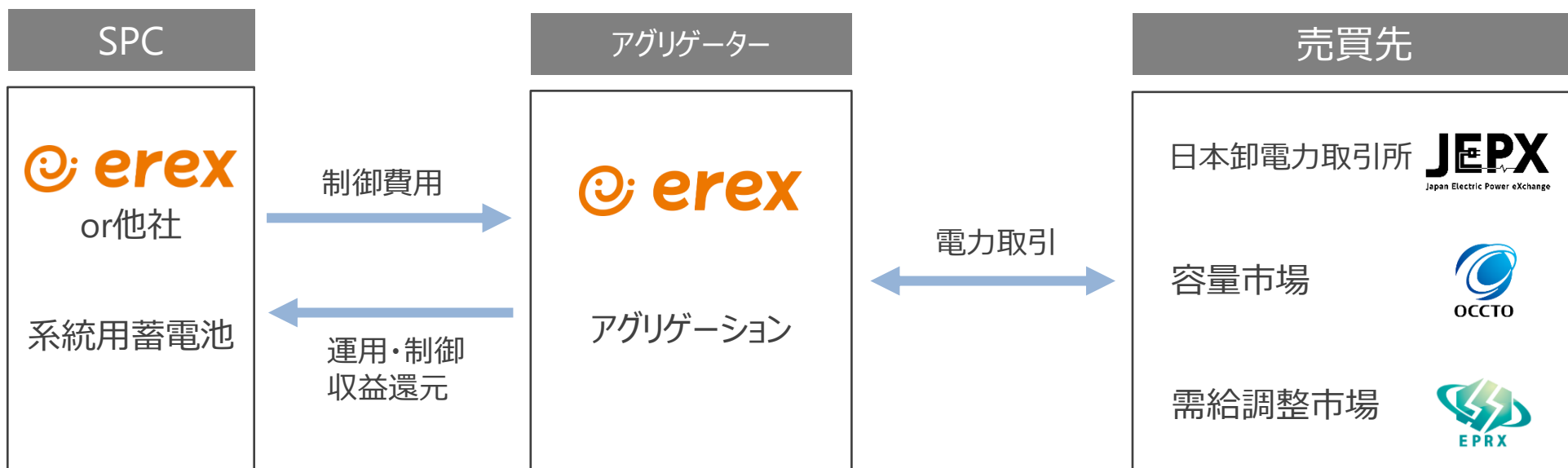
Ⅱ 蓄電池事業の概要と収益モデル

- ・系統用蓄電池
- ・再エネ併設蓄電池

■ 系統用蓄電池

電力系統に直接接続し、需給バランス調整や周波数制御、ピークシフトなどを担う仕組み。複数の発電源や需要家を対象に系統全体の安定性を高めることができ、電力供給の信頼性向上に寄与する。

【系統用蓄電池スキーム】



取引市場	取引価値	特徴と収益化方法
日本卸電力取引所 (JEPX)	蓄電・放電 できる電力量 (kWh)	<ul style="list-style-type: none"> □ 実際に発電・放電された電力量 (kWh) を取引する □ kWh単価の安い時間帯に買電し蓄電、高い時間帯に放電し売電することで、価格差収益（アービトラージ）を得る
容量市場	蓄電・放電 できる容量 (kW)	<ul style="list-style-type: none"> □ 再エネ電源の増加により需給バランスの不安定さが増すため電力不足を補完できる電力資源を募る市場 □ 4年後の発電・蓄電容量 (kW) を取引する □ ピーク需要に備え、発電・蓄電能力を提供することで年額報酬を得る
需給調整市場 (EPRX)	短時間で蓄電・放電 できる調整能力 (ΔkW)	<ul style="list-style-type: none"> □ 需給の不足と余剰による周波数の乱れを防ぐために調整可能な電力資源を募る市場 □ 需給バランスを調整する (ΔkW) 価値を提供することで対価を得る □ 一次～三次調整力と需要の変動成分により分類

取引市場

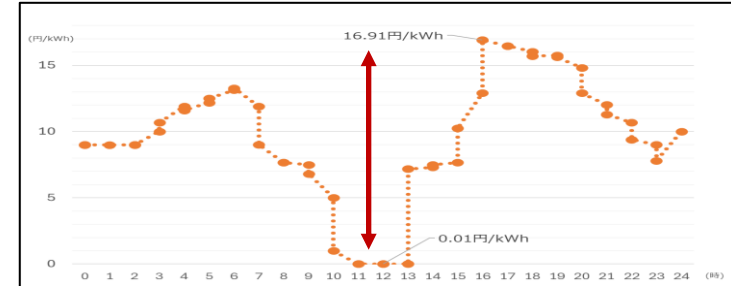
収益イメージ

市場推移

日本卸電力取引所
(JEPX)

値差収益

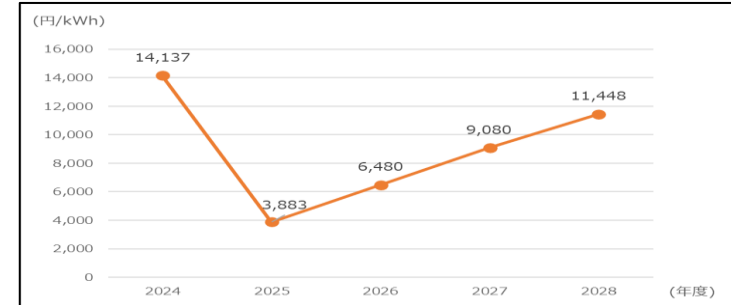
約37百万円/年※1



容量市場

容量確保契約金

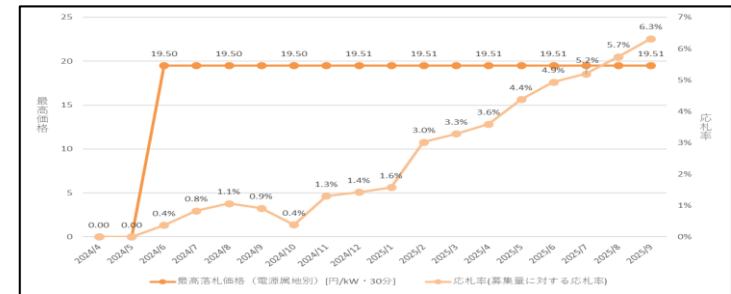
約25百万円/年



需給調整市場
(EPRX)

ΔkW調整金

約37百万円/年※1



【試算モデルの前提】(実際の蓄電池の仕様やエリアによる変動あり)

蓄電池：出力2MW、容量8MWh

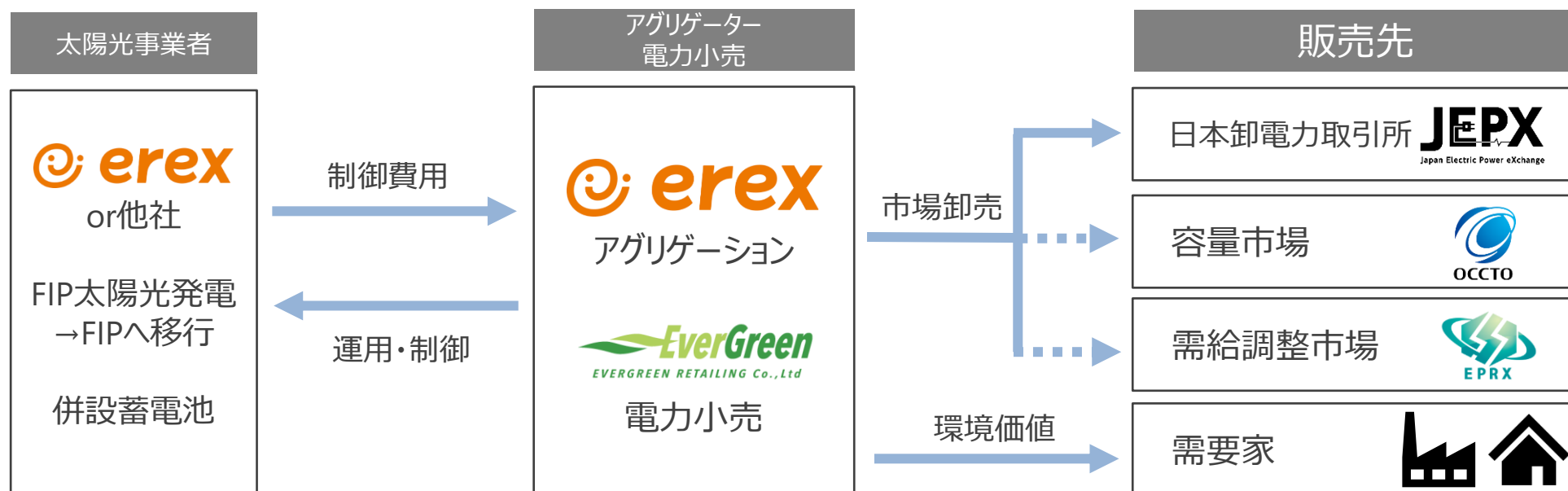
※1：JEPX、EPRXにおける収益は市場動向により収益を見込める市場へ売電するため平均値を記載

蓄電池を活用した事業モデル（再エネ併設蓄電池）

■ 再エネ併設蓄電池

太陽光や風力発電所に併設され、発電出力の変動を吸収し平準化する仕組み。出力制御を回避し、再エネの有効利用と発電事業者の収益最大化に貢献する。再エネ導入拡大を支える重要な役割を果たす。

【再エネ併設蓄電池スキーム】

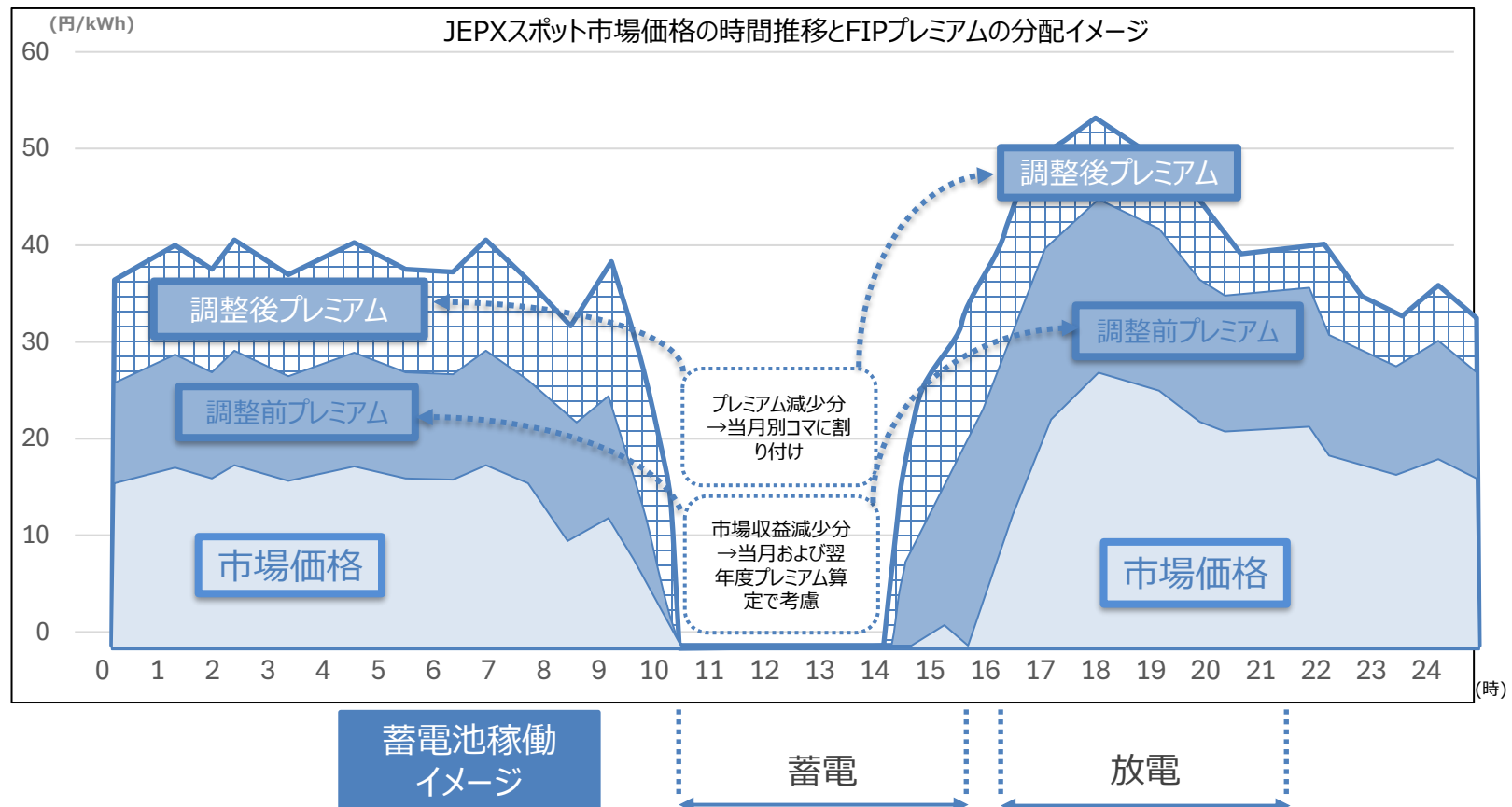


■ 再エネ併設蓄電池スキームにおける収益化のポイント

①FIT制度と同等の収入獲得が可能

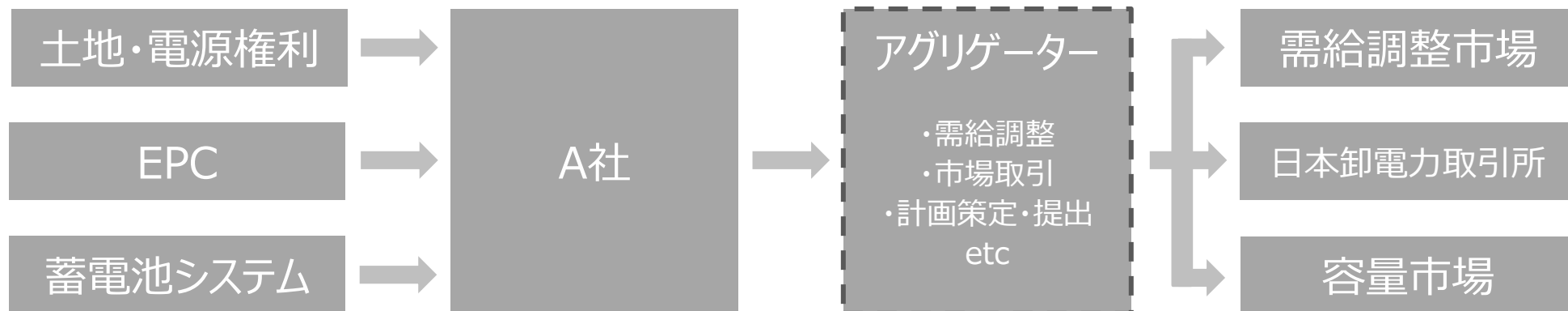
②0.01円/kWhのコマはプレミアムが付かない代わりに、別時間帯に再分配され上乘せされる

したがって、蓄電池を併設し、0.01円/kWhのコマで充電し、別時間帯で放電すると収益向上が可能



Ⅲ アグリゲーションの重要性

■ 他社蓄電池事業スキーム例

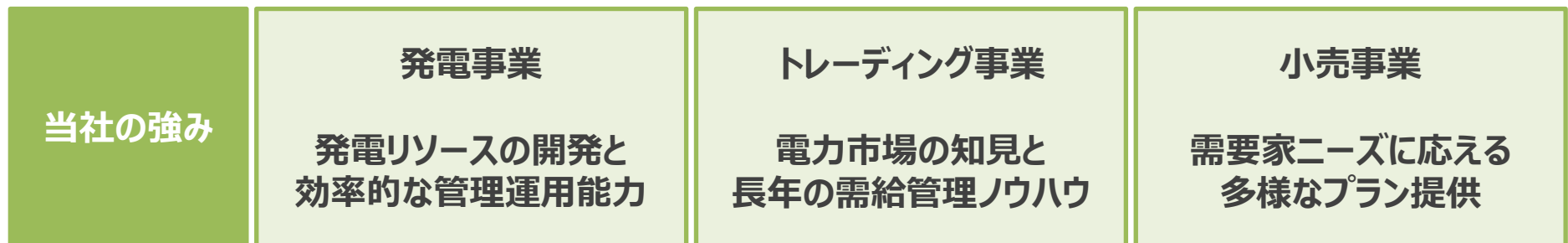


蓄電池事業においてアグリゲーターは必須

アグリゲーターには継続的なリソースの確保が必要
多くの蓄電池事業者がアグリゲーターを外部委託

アグリゲーターを受託できる事業者は少数と認識

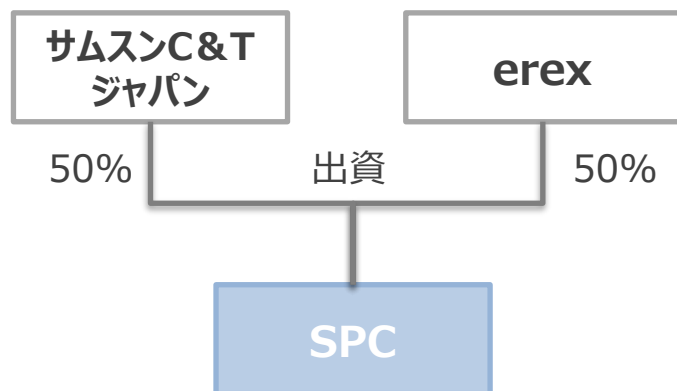
- 当社の強みとして、アグリゲーションに必要な機能を一通貫で提供。長年の需給管理ノウハウや小売事業における営業ネットワークなど既存機能を最大限活用
- 供給（発電）者側の再エネ電源リソースと需要家側の分散電源・需要リソースを相互に活用
- アグリゲーターとしてリソースを取りまとめ、出力制御回避・余剰電力有効活用・供給力提供・再エネ有効活用などで付加価値を提供



サムスンC&Tジャパンと系統用蓄電池事業における共同開発実施等に合意

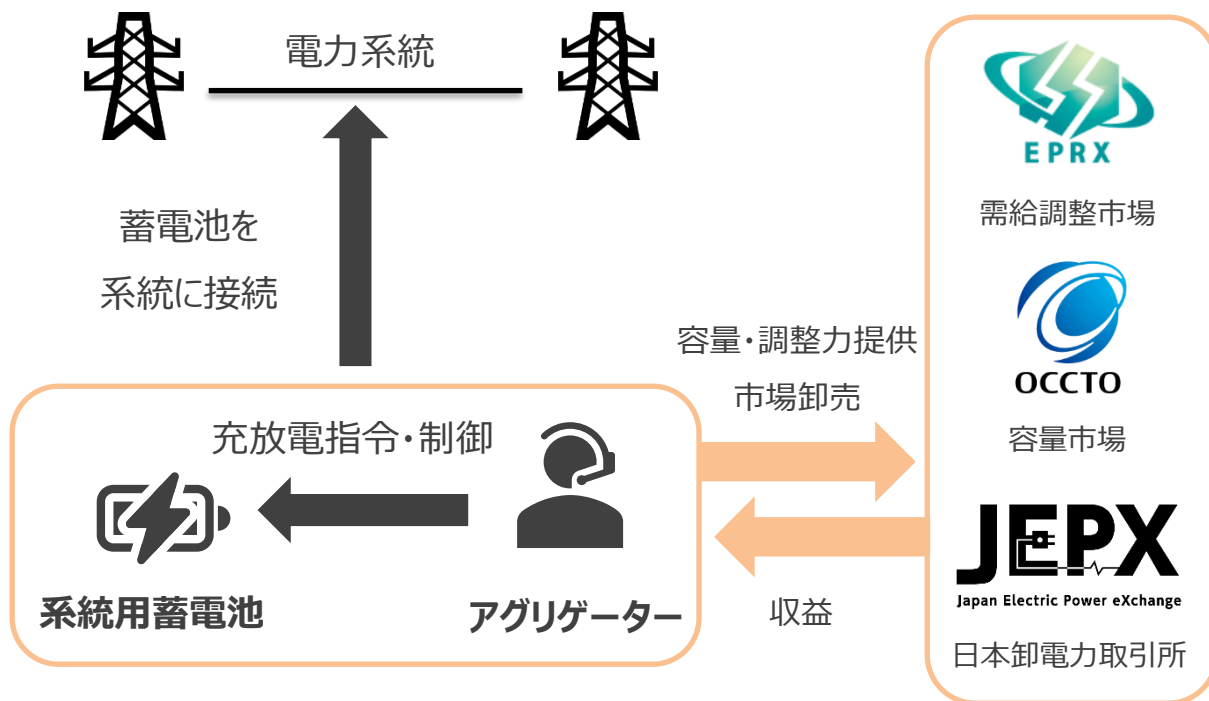
- サムスンC&Tジャパン株式会社（SCTJ社）との間で、2025年10月31日に日本国内における系統用蓄電池システム（BESS）事業の共同開発実施等の合意に関する覚書を締結。両社折半出資する合弁会社を通じて本共同開発を実施し、全国規模での系統用蓄電池プロジェクトの開発を目指す
- 当社が2025年9月4日付で発表した宮崎県串間市出力2MW・蓄電容量8MWh規模の蓄電所への共同出資も準備中

SCTJ社とのスキーム図



- SCTJ社の親会社のサムスン物産商事部門は北米や豪州等で蓄電池事業を展開しており、SCTJ社は調達力や金融スキーム構築に強み

宮崎県串間市案件スキーム図

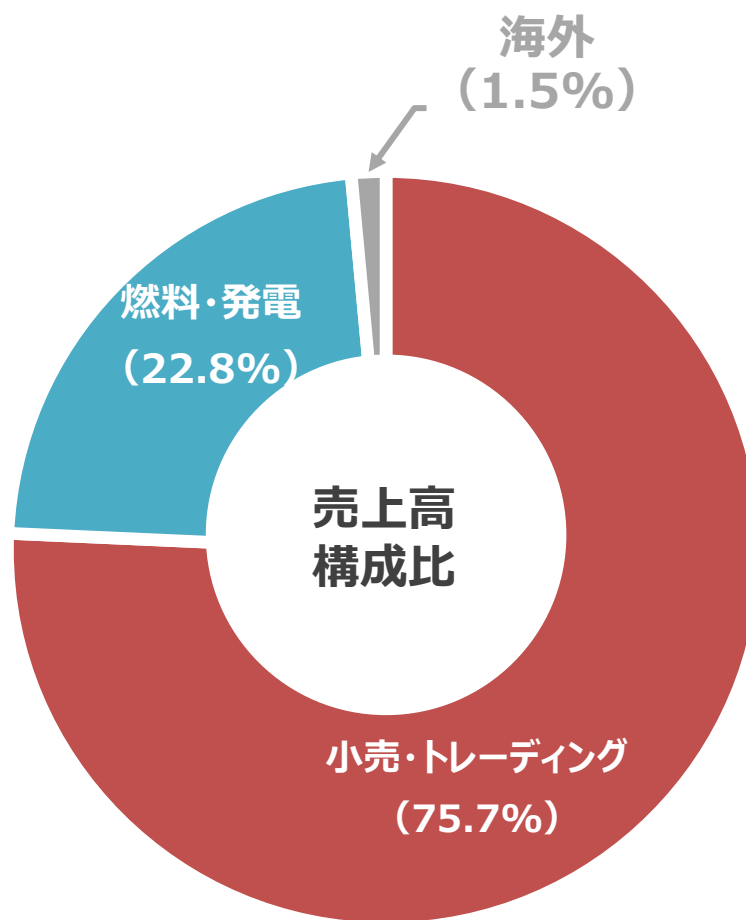


- ✓ カーボンニュートラルの実現に向け、再エネ電源の導入が進む中、需給の不安定化が大きな課題。その解決策として、蓄電池の導入が求められており、**国内外で蓄電池市場は急速に拡大**しています。
- ✓ 蓄電池ビジネスにおいて収益を向上するためには、ボラティリティの高い**多様な市場において、最適な対応**を行うことが極めて重要です。
- ✓ 一方で、蓄電池事業に参入する事業者は増加しているものの、知見とノウハウを備えた**アグリゲーターが不足**するという課題が予見されています。

当社はその課題を解決できるため好機と捉えております

IV イーレックスの戦略における蓄電池の位置づけ

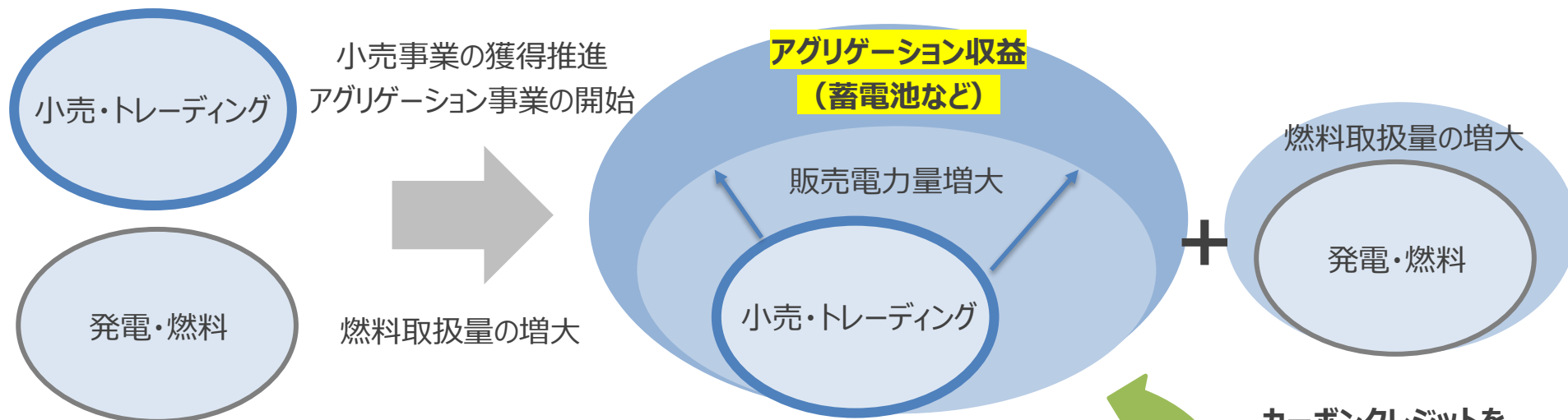
2026.3期 事業計画 売上構成比



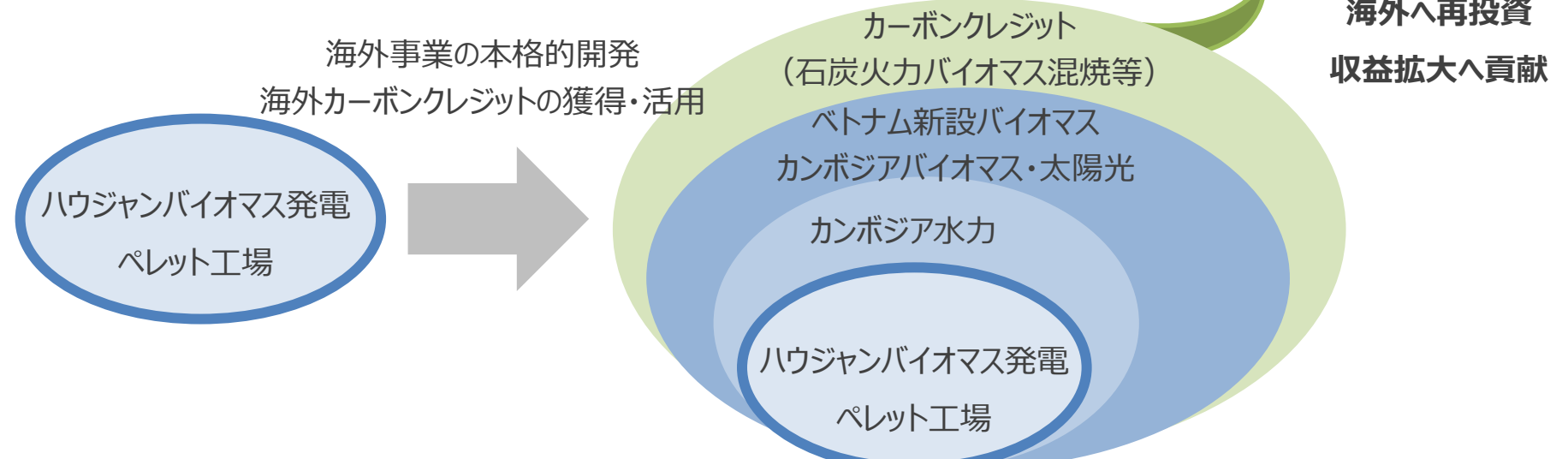
2025年度

今後の展開

国内



海外



No	質問
1	投資額と収益想定を具体的に教えてほしい。
2	蓄電池事業のボトルネックはなにか？ 長期的に継続可能なのか？
3	蓄電池事業においてアグリゲーション機能を保有する競合他社はどこか？
4	イーレックスの蓄電池事業における他社優位性はなにか？
5	イーレックスは蓄電池事業をどの程度の規模にする計画なのか？

V 質疑応答

erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE